

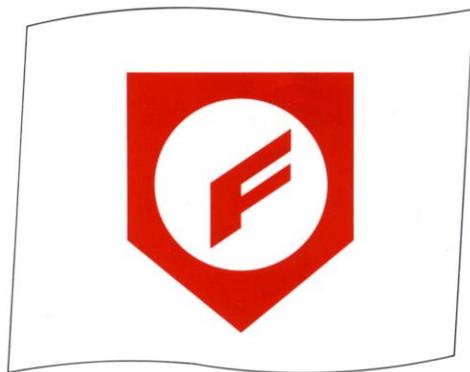
第66回沖縄県高等学校野球春季大会

平成31年3月21日（木）～ 4月4日（木）

主催：沖縄県高等学校野球連盟
共催：琉球新報社
後援：沖縄県教育委員会
朝日新聞社

会場：北谷公園野球場
沖縄セルラースタジアム那覇
アトムホームスタジアム宜野湾

大会要項



一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

第 6 6 回 沖 縄 県 高 等 学 校 野 球 春 季 大 会

大 会 要 項

主 催 沖 縄 県 高 等 学 校 野 球 連 盟
共 催 琉 球 新 報 社
後 援 沖 縄 県 教 育 委 員 会
朝 日 新 聞 社

1. 期 日 平成 3 1 年 3 月 2 1 日 (木) ~ 4 月 4 日 (木)
2. 会 場 北 谷 公 園 野 球 場 北 谷 町 字 美 浜 2 番 地
沖 縄 セ ル ラ ー ス タ ジ ア ム 那 覇 那 覇 市 奥 武 山 5 2 番 地
ア ト ム ホ ー ム ス タ ジ ア ム 宜 野 湾 宜 野 湾 市 真 志 喜 4 - 2 - 1
3. 大会申し込み 本大会に参加を希望する加盟校は、沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp/>) に掲載されている所定の選手資格証明書を 1 3 部 (押印はコピーした後にすること。) 作成し下記宛に提出して下さい。◎印なども忘れずに記入して下さい。パソコンなどで独自に作成した証明書を提出した場合は、再提出をお願いすることになりますのでご注意ください。
提出先 〒901-2224 宜野湾市真志喜 2-25-1 県立宜野湾高等学校内
沖縄県高等学校野球連盟 理事長 又吉 忠 宛
4. 申し込締切り 平成 3 1 年 2 月 1 8 日 (月) 正午までに提出、以後は理由を問わず受け付けません。
5. 抽 選 会 平成 3 1 年 2 月 1 9 日 (火) 午後 2 時 会場：北中城村立中央公民館
①参加者は各参加校の責任教師、監督、主将、大会役員。
②抽選に当たってはシード制を採用する。(沖縄水産・興南・沖縄尚学・嘉手納)
6. 大会諸経費 ①入場整理券 (大人 5 0 0 円、中高生 2 0 0 円) をもって充当する。
②中高生の団体割引については、引率者を含む 2 0 名以上は 1 0 0 円とする。
③剰余金が生じたときは、本連盟運営費に繰り入れ、不足の時は同運営費から充当する。
7. 大会組織 及び運営 ①参加校は日本高等学校野球連盟に加盟している学校代表チームによって行う。
②主催者で運営委員会を組織し、大会運営に万全を期す。
③大会役員は運営委員会で適任者を選び委嘱する。審判委員は県高野連審判部が担当する。
8. 申込み後の 選手登録変更 登録選手の変更があるときは、3 月 1 9 日 (火) 1 5 時までに下記提出先へ、所定の様式選手登録変更で 1 0 部提出して下さい。それ以後は受け付けません。必ず校長印と校医印を押して下さい。
提出先 〒901-2224 宜野湾市真志喜 2-25-1 県立宜野湾高等学校内
沖縄県高等学校野球連盟 理事長 又吉 忠 宛
9. 表彰及び派遣 ①優勝校へは賞状、優勝旗、優勝楯を授与する。
②準優勝校へは賞状、準優勝楯を授与する。
③本大会の優勝校は、鹿児島県で開催される第 1 4 4 回九州地区高等学校野球大会【4 月 2 0 日 (土) ~ 4 月 2 5 日 (木)】に出場させる。
※注 ①本大会の優勝校・準優勝校・3 位校・4 位校は 5 月 1 8 日 (土)・1 9 日 (日) に行われる第 4 8 回招待試合で明石市立明石商業高等学校 (兵庫県) と対戦させる。
②本大会の優勝校・準優勝校は 5 月 2 5 日 (土)・2 6 日 (日) 熊本県で行われる第 7 回熊本県派遣交流強化試合 (熊本県秋季大会上位校との対戦) に派遣する。
10. 開 会 式 今大会より実施しません
11. 閉 会 式 決勝戦終了後、優勝、準優勝の両校で行なう。

第 6 6 回 沖 縄 県 高 等 学 校 野 球 春 季 大 会

細 則

1. 試合規則は、2019年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、平成31年4月2日現在で満18才（平成13年＝2001年4月2日以降の出生者）以下の者。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第1試合の出場チームは、試合開始60分前には所定の球場に到着し、大会本部よりオーダー用紙を受け取り記入後、直ちに提出すること。その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。（オーダー用紙交換は試合開始50分前に行なう。）
5. 第2試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は5回終了後に行なう（放送を行なう）。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備をしておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
ベンチには登録の責任教師1名、副責任教師1名、監督1名、選手20名、記録員1名の計24名以内とする。
7. 責任教師か副責任教師がノックした後は、平服に着替えベンチに入ること（高野連スタッフシャツも可）。
8. 試合前のシートノックは7分間。ノック時の補助選手は5名までとし、必ずヘルメットを着用すること。又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、スパイク、または黒のシューズとする。補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員のいる場合は毎試合代わってもよい。但し、シートノックの補助をするときはユニフォームを着用すること。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ずSGマーク（経産省認可）両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット（SGマーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは1個のみとする（監督のみ使用）。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。人員は25名以内とする。
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてのウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは2組（4人）まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。
《応援団について》
 1. 応援は高校野球にふさわしいものであること。品位と節度をもったものでなければならない。
 2. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
 3. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。
 4. 個人名を記入したノボリやテープ・紙ふぶき、校名の入ったノボリ、鳴り物等は禁止する。
 5. プラスバンド以外の太鼓については、洋太鼓・和太鼓いずれかを1個とする。
 6. 応援団は、試合中は場内の整理、試合終了後はスタンドの清掃に協力する。

大会特別規定

- シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。制限時間は7分間とする。但し、時間の都合で、短縮または行わないこともある。シートノックの補助員5名以内と補助ノッカー1名を認める。
- 本大会はタイブレーク制度を採用する。タイブレークは13回、無死1塁・2塁からとし、打順は12回終了時の打順を引き継ぐものとする。**
- 本大会では、コールドゲームを次のとおり定める。
 - ①得点差によるものは、5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
 - ②降雨または日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が試合の打ち切りを命じ、両チーム共に7回の攻撃を完了するか、或いは先攻チームが7回を終わった得点より後攻チームの6回までの得点が多い場合はコールドゲームを適用する。6回以前であればノーゲーム(再試合)とする。
 - ③**決勝戦には、コールドゲーム・タイブレークは適用しない。**
試合が延長戦に入った場合は、15回で打ち切り、後日再試合とする。
- 降雨中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめぐりに試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は中止及び、前項の3、②を適用する。
- 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また、日没15分前からは新しいイニングに入らない。
- 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。
 - ・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。
 - ①打者が死球などで負傷した場合
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
 - ②塁上の走者が負傷した場合
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。
(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
- 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
- 審判委員へのアピールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
- 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
- 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
- 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
- 携帯電話はベンチに持ち込まない。
- 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
- サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。

第 6 6 回 沖 縄 県 高 等 学 校 野 球 春 季 大 会

開 催 細 則

1. 開 会 式 今 大 会 より 実 施 し ま せ ン

始 球 式 (各 球 場 に て 9 時 0 0 分 予 定)

2. 閉 会 式

- 1 決 勝 戦 終 了 後、優 勝 チ ー ム、準 優 勝 チ ー ム、大 会 役 員、審 判 委 員、来 賓 で 行 う。
- 2 決 勝 戦 が 終 わ り 次 第、両 チ ー ム の 選 手 は 投 手 板 を 中 心 に バ ッ ク ネ ッ ト に 向 か っ て 一 列 横 隊 に 整 列 す る。
- 3 大 会 役 員、審 判 委 員、来 賓 お よ び 両 校 の 校 長、責 任 教 師 (正 副)、監 督 は バ ッ ク ネ ッ ト 前 に 整 列 す る。

閉 会 式 式 次 第 司 会 新 垣 健 一 (高 野 連 総 務 部 長)

1	開	会			
2	成	績	発	表	
3	表		彰		大 会 長 岩 崎 勝 久 (高 野 連 会 長)
4	大 会 長	挨	拶		大 会 長 岩 崎 勝 久 (高 野 連 会 長)
5	激 励 の こと ば			大 会 副 会 長 玻 名 城 泰 山 (琉 球 新 報 社 代 表 取 締 役 社 長)	
6	国 旗 並 び に 大 会 旗 降 納				
7	閉 会 宣 言		大 会 副 会 長	仲 山 久 美 子 (高 野 連 副 会 長)	

※ 閉 会 式 後、優 勝、準 優 勝 チ ー ム は ダ イ ヤ モ ン ド を 一 周 す る

第66回沖縄県高等学校野球春季大会 競技役員

顧問	知念 繁夫 新屋 太郎 宜野座 嗣郎 國吉 眞介 宮里 景眞 狩俣 幸夫 砂川 恵重 赤嶺 研雄 我如古 清 玉城 崇 志良堂 芳男 前新 健 神谷 孝 森田 邦弘 前新 出 安里 嗣則 平敷 昭人（県教育委員会教育長） 伊 東 聖（朝日新聞那覇総局長） 遠藤 孝康（毎日新聞那覇支局長）
参加校校長	平良 朝治（県教育庁保健体育課長）
大会長	岩崎 勝久（県高野連会長）
大会副会長	宮城 淳（県高野連副会長） 仲山 久美子（県高野連副会長） 玻名城 泰山 琉球新報社（琉球新報社代表取締役社長） 伊 東 聖 朝日新聞社（朝日新聞那覇総局長）
運営委員長	又吉 忠（県高野連理事長）
運営委員長補	前川 等（県高野連副理事長）
運営副委員長	上間 理博（県高野連常任理事） 中村 健（県高野連常任理事） 町原 尚忠（県高野連常任理事） 真玉橋 長郎（県高野連常任理事） 嘉数 節（県高野連常任理事）
運営委員	
総務部部长	新垣 健一
総務部副部长	瀬底 智樹 徳山 篤史 照屋 圭二郎
技術部部长	島袋 春樹
技術部副部长	知念 正仁 田里 友哉 川上 琢也
審判部部长	多嘉山 太
審判部副部长	金城 聡 照屋 拓己 西銘 健一
記録情報部部长	神里 大一
情報記録部副部长	仲間 広美 濱元 良人 佐久原 大志

競技役員	高良 耕平	中本 昌弥	津山 嘉都真
	奥濱 正	宮城 岳幸	中村 敦
	田原 伸繁	伊良波 泰	西村 レオナ
	宮里 義浩	具志堅 興律	玉城 幸哉
	比嘉 智二	安富 大志	外間 勝
	岸本 拓馬	川平 優次	新垣 隆夫
	天願 恒	東 佳奈子	前濱 範一
	比嘉 秀策	山内 梨奈	大川 基樹
	仲宗根寛史	名渡山 直子	仲里 真澄
	宮里 淳	島袋 俊哉	久保田修
	上原 健吾	大蔵 宗元	米須 清祐
	眞玉橋 元博	當銘 樹	比嘉 真貴子
	嘉陽 宗雄	奥 達規	浦添 広志
	神谷 嘉宗	平良 栄二	山城 明男
	砂川 涉	城間 直美	米須 清徳
	仲川 和充	大城 浩二	嶺井 政彦
	大城 康弘	仲吉 誠	池宮城 朗
	平良 隆訓	奥田 誠吾	福仲 直人
	藤井 智	安里 大作	志良堂 哲也
	呉屋 大輔	新里 和久	福原 修
	眞栄田 聡	砂川 太	阿波連 仁
	大嶺 祐介	金城 幸伸	安富 勇人
	東 亮	國吉 大志	新田 伸
	仲松 志朗	赤堂 秀馬	宮城 隼人
	神里 武弥	山城 和也	大城 康成
	下地 克弥	吉元 嘉邦	津留 直樹
	大城 英健	伊志嶺 大吾	比嘉 公也
	喜瀬 民男	知名 淳	岸本 亘史
	野原 潤一	川満 亨	渡久地 政国
	町田 宗毅	山里 貞俊	洲鎌 弘樹
	金城 由貴子	仲里 武史	上原 正昭
	大城 盛隆	伊藝 修策	瀬名波 幹智
	親川 聖	眞榮平 康広	上原 忠
	多和田 真	眞玉橋 治	金城 裕介
	大城 貴宏	石塚 年勝	豊原 啓人
	宮里 友也	大浦 陸	大城 一基
	大嶺 真	神里 正太	與那城 吾朗
	上原 拓	仲本 賢一郎	末吉 昇一
	前城 大吾	神山 剛史	神山 昂
	岸本 幸彦	富川 盛章	岸本 敬
	外間 一先		

第 6 6 回沖繩県高等学校野球春季大会 審判委員

審判委員長	多嘉山 太	(県高野連審判部部長)		
審判副委員長	金城 聡	(県高野連副審判部副部長)		
	照屋 拓己	(県高野連副審判部副部長)		
	西銘 健一	(県高野連副審判部副部長)		
審判幹事	平良 章次	島袋 恭一	国仲 吉川	町田 幸男
	譜久村 淳一	安富 薫	比嘉 安孝	玉代勢 秀人
	座喜味 治	国仲 直彦	玉城 健	
審判委員	沖繩県高等学校野球連盟 審判部			
	多嘉山 太	金城 聡	照屋 拓己	西銘 健一
	平良 章次	島袋 恭一	国仲 吉川	町田 幸男
	山里 泉	譜久村 淳一	安富 薫	比嘉 安孝
	玉代勢 秀人	座喜味 治	国仲 直彦	玉城 健
	久高 唯安	大城 建胖	喜納 清一	西村 洋
	真壁 朝善	屋宜 充	宮里 一	我喜屋 宗彦
	澤岷 安邦	喜友名 功	上原 浩	大神田 睦
	嘉数 正重	兼次 博	大城 幸光	仲本 盛和
	金城 明	玉城 誠	小笠原 雄一	末吉 栄次
	大浜 拓郎	平田 英樹	平良 朋広	下里 大弥
	西野 僚真	岸本 幸大	西江 大成	嘉陽 宗雄
	福原 修	又吉 忠	具志堅 興律	嶺井 政彦
	天願 恒	平良 博志	野原 潤一	津留 直樹
	中村 健	外間 一先	田原 伸繁	嘉数 節
	親川 聖	平良 隆訓	眞玉橋 元博	町原 尚忠
	前川 等	伊良波 泰	吉元 嘉邦	新田 伸
	知名 淳	島袋 春樹	宮里 淳	金城 達也
	大川 基樹	照屋 圭二郎	奥田 誠吾	上間 理博
	外間 勝	山城 明男	喜瀬 民男	町田 宗毅
	石塚 年勝	浦添 広志	島袋 俊哉	眞玉橋 長郎
	川満 亨	大蔵 宗元	長島 誠	知念 正仁
	大城 康成	東 亮	徳山 篤史	大城 盛隆
	玉城 幸哉	平良 栄二	田里 友哉	山城 和也
	濱元 良人	安富 大志	川上 琢也	大城 康弘
	大城 浩二	津山 嘉都真	仲里 眞澄	國吉 大志
	渡久地 政国	上原 健吾	宮城 岳幸	宮里 健二
	山里 貞俊	安里 大作	神里 大一	高良 耕平
	喜友名 司	佐久原 大志	上原 拓	伊藝 修策
	豊原 啓人	安富 勇人	洲鎌 弘樹	仲本 賢一郎
	宮里 友也	大嶺 祐介	岸本 拓馬	金城 裕介
	川平 優次	與那城 吾朗	大嶺 眞	大城 一基
	島袋 英治	安座間 竜作	當銘 樹	赤堂 秀馬